

お茶の栽培に励む友樹さん(中央)、妻の美加代さん(右)と従業員



フェスでグランプリに輝く

天城町 徳之島製茶の紅茶 高い評価 夏場に稼ぐ作物として導入

天城町の(株)徳之島製茶(豊村友二代表)の紅茶「サンルージュ」が、1月に東京で開かれた「国産お茶フェス2020」でグランプリに輝いた。このフェスは、古くから日本で生産されているお茶のおいしさを楽しみながら、地域の独自性や経済発展などについて参加者が共に考えるイベントとして開かれている。

グランプリ受賞について工場長の豊村友樹さん(38)は「自らが作った紅茶が高い評価を受けたことはうれしい。励みになる」と喜びを語った。

茶の栽培を始めたきっかけは、基幹作物のサトウキビの収穫が冬から春先であ

るため、「夏場に収入のある作物はないか」と県などと相談。友樹さんが当時の県茶業試験場で茶の技術を学んだあと、父の友二さん(66)とともに徳之島製茶を設立した。

今後について、友樹さんは「健康志向が高まるなか、機能性に特化したお茶づくりを会社のコンセプトとしている。徳之島がサンルージュとべにふうきのお茶、紅茶の産地として認知されるよう頑張りたい」と意気込みを語った。

詳しくは、同社ホームページ(<http://www.tokubenicha.com>)まで。

(天城町農業委員会)